

症例1: 80才代 女性

検体及び処理法: (写真1-4)自然尿引きガラス法、(写真5-6)右分離尿LBC法(Sure Path)

臨床診断: 右水腎症

臨床経過: 両下肢の腫脹で受診。超音波検査にて右腎盂、腎杯の拡張を認めた

出題者: 久保 綾(佐世保共済病院)

正解: 赤字

1.) 症例 1 (選択問題)

反応性尿路上皮細胞
異形成

低異型度尿路上皮癌

高異型度尿路上皮癌

上皮内癌

	回答	
	(%)	(投票数)
	24.47%	23
	5.32%	5
	56.38%	53
	6.38%	6
	7.45%	7
合計	100%	94

症例 1

1. 反応性尿路上皮細胞



2. 異形成



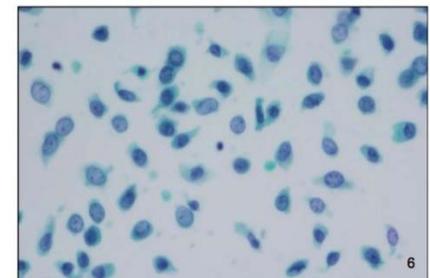
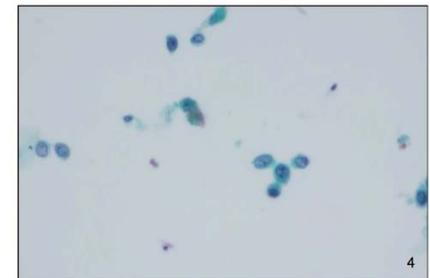
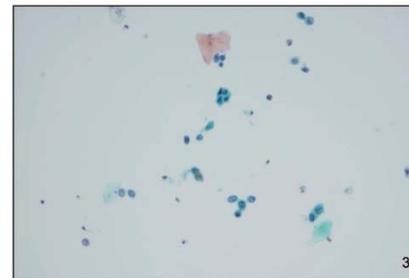
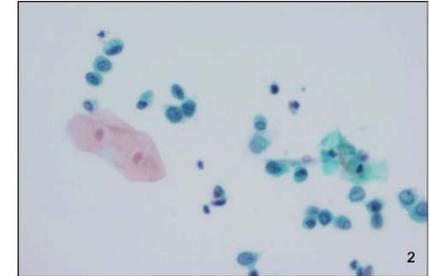
3. 低異型度尿路上皮癌



4. 高異型度尿路上皮癌



5. 上皮内癌



症例2:70才代 男性

検体及び処理法:分腎尿 LBC法(ThinPrep)

臨床所見:透析歴25年、貧血、全身倦怠感、腹部膨満感、両側胸水あり。

出題者:瀬古周子(名古屋第二赤十字病院)

2.) 症例2(選択問題)

反応性尿細管上皮

低異型度尿路上皮癌

高異型度尿路上皮癌

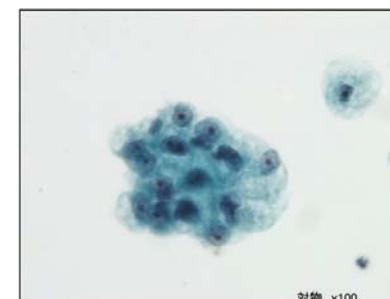
腎細胞癌

胃癌の転移

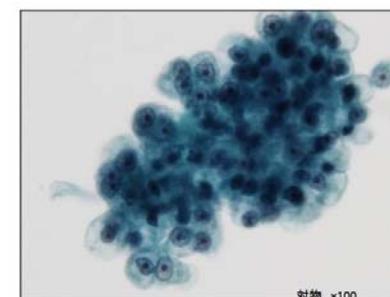
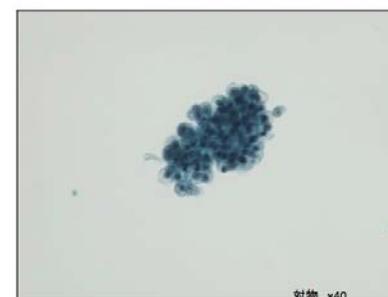
	回答	
	(%)	(投票数)
反応性尿細管上皮	25.81%	24
低異型度尿路上皮癌	1.08%	1
高異型度尿路上皮癌	5.38%	5
腎細胞癌	62.37%	58
胃癌の転移	5.38%	5
合計	100%	93

症例2

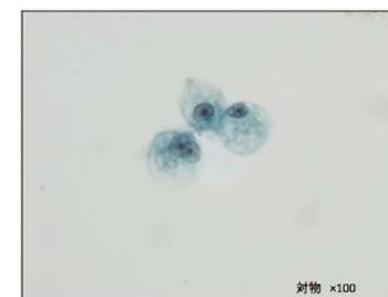
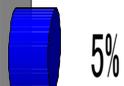
1. 反応性尿細管上皮



2. 低異型度尿路上皮癌



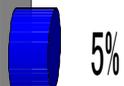
3. 高異型度尿路上皮癌



4. 腎細胞癌



5. 胃癌の転移



症例3(設問1):70才代 男性
検体及び処理法:自然尿 オートスメア法
臨床所見:前立腺肥大症で通院治療中に血尿を認めた。

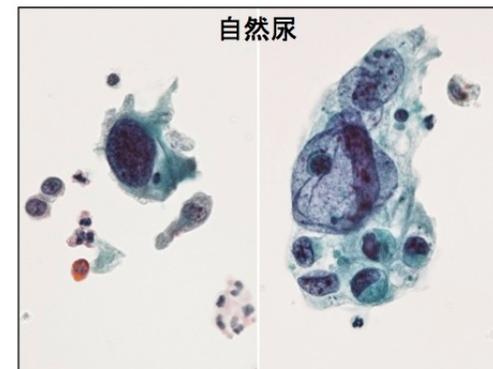
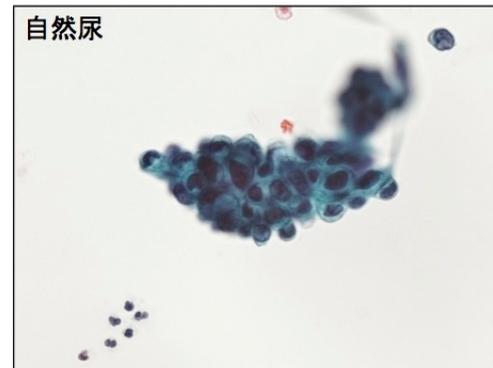
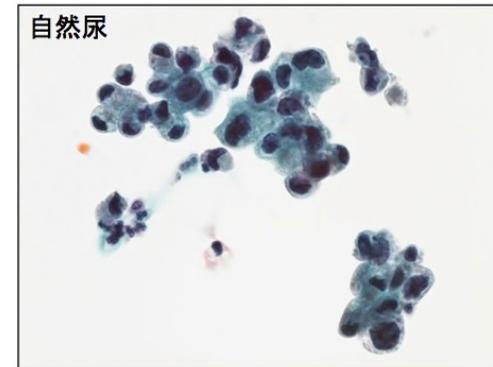
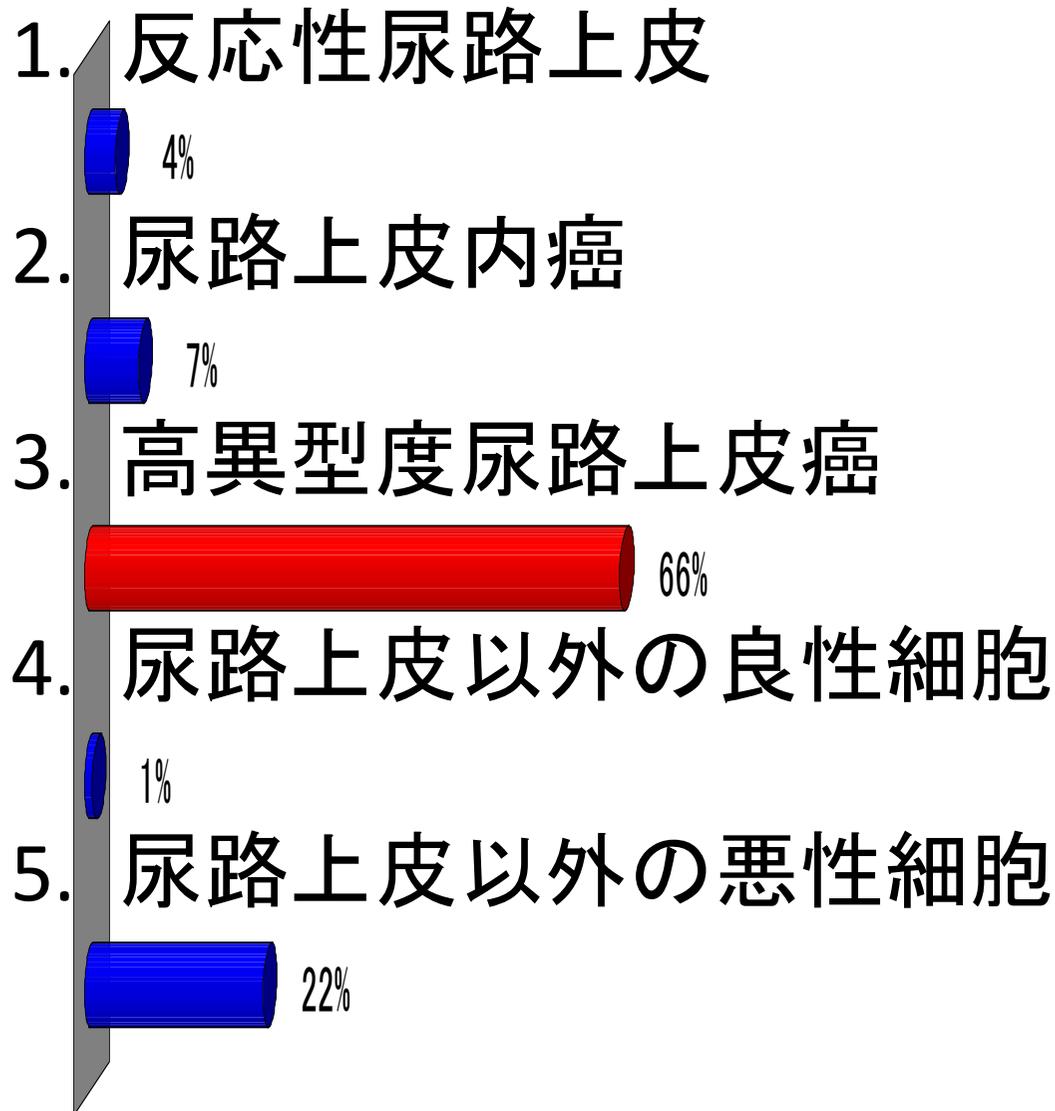
出題者:三浦弘守(東北大学医学部附属病院)
設問1,2それぞれに回答

3.) 症例3 (設問1:自然尿) (選択問題)

反応性尿路上皮
尿路上皮内癌
高異型度尿路上皮癌
尿路上皮以外の良性細胞
尿路上皮以外の悪性細胞

	回答	
	(%)	(投票数)
反応性尿路上皮	3.85%	4
尿路上皮内癌	6.73%	7
高異型度尿路上皮癌	66.35%	69
尿路上皮以外の良性細胞	0.96%	1
尿路上皮以外の悪性細胞	22.12%	23
合計	100%	104

症例3 (設問1:自然尿)



症例3(設問2):70才代 男性
検体及び処理法:カテーテル尿、オートスメア法
臨床所見:前立腺肥大症で通院治療中に血尿を認めた。

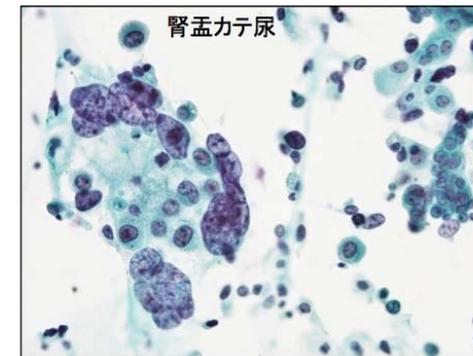
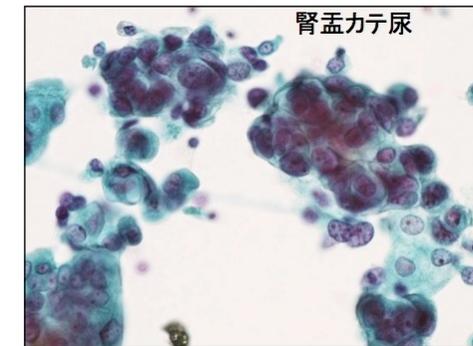
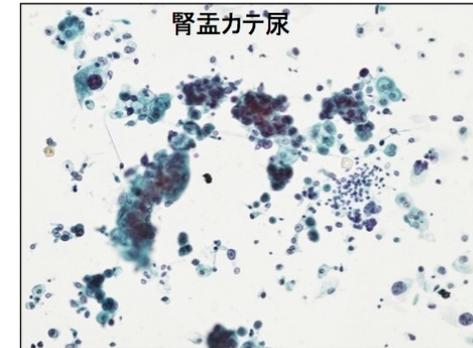
出題者:三浦弘守(東北大学医学部附属病院)
設問1,2それぞれに回答

4.) 症例3 (設問2:腎盂カテーテル尿) (選択問題)

反応性尿路上皮
尿路上皮内癌
高異型度尿路上皮癌
尿路上皮以外の良性細胞
尿路上皮以外の悪性細胞

	回答	
	(%)	(投票数)
反応性尿路上皮	2.25%	2
尿路上皮内癌	4.49%	4
高異型度尿路上皮癌	67.42%	60
尿路上皮以外の良性細胞	2.25%	2
尿路上皮以外の悪性細胞	23.60%	21
合計	100%	89

症例3 (設問2: 腎盂カテーテル尿)



症例4(設問1):50才代 男性

検体:新膀胱(回腸)自排尿、シニアパス処理標本

現病歴:5年前に膀胱癌にてTUR-BT施行。

TURの組織診断 UC/TCC, PNT, G2, pTa, ly0, v0.その後2回再発、BCG治療を施行し経過観察中に細胞診にて癌を疑われ3回目のTURを施行。膀胱および右下部尿管浸潤癌の診断され下部尿管および膀胱全摘後に回腸新膀胱増設術を施行。

組織診断:UC/TCC, PIT, G2, INF α , pR0, ly1(D2-40), v0(VB-HE), rpT2, pN0, cM0, rpStage II,

WHO Classification: urothelial carcinoma, infiltrating, Nested, high grade.

以降、細胞診にて経過観察

出題者:佐藤正和(四国がんセンター)

5.) 症例4 (設問1) (選択問題)

正常または良性

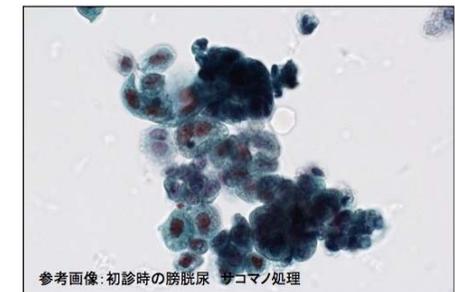
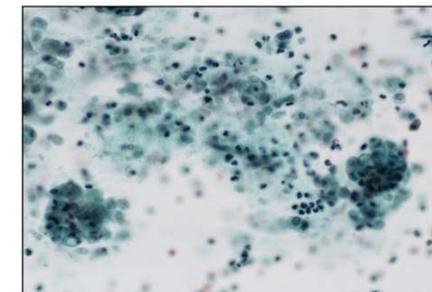
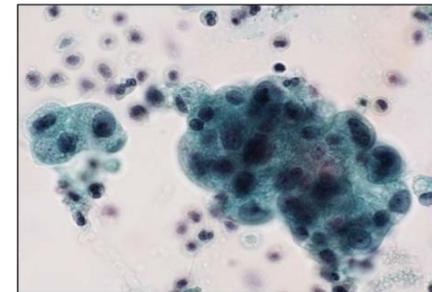
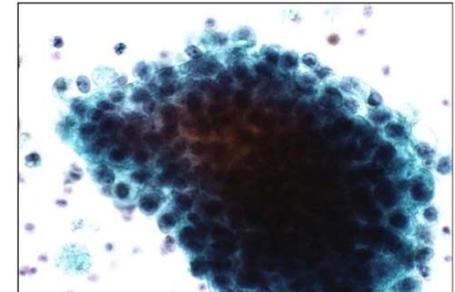
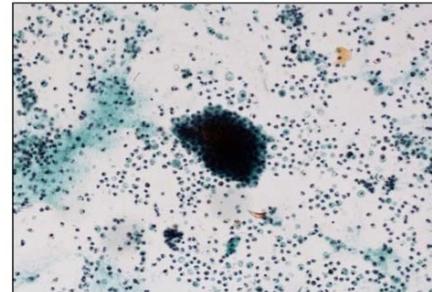
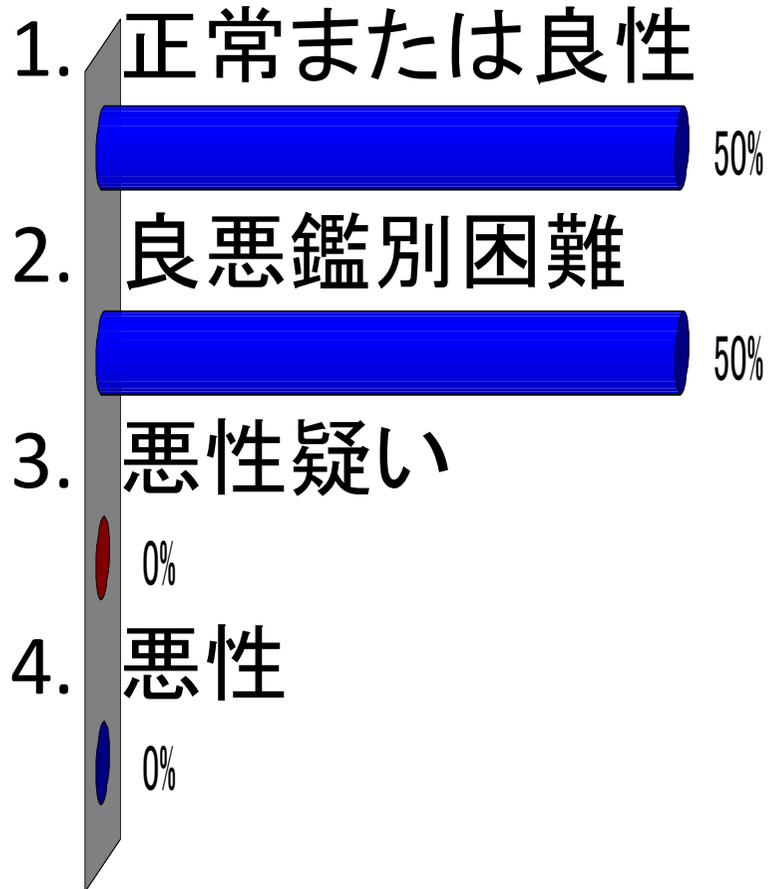
良悪鑑別困難

悪性疑い

悪性

	回答	
	(%)	(投票数)
	50%	1
	50%	1
	0%	0
	0%	0
合計	100%	2

症例4 (設問1)



参考画像: 初診時の膀胱尿 サコマンノ処理

症例4(設問2):50才代 男性

検体及び処理法:新膀胱(回腸)自排尿、 シュアパス処理標本

現病歴:5年前に膀胱癌にてTUR-BT施行。

TURの組織診断 UC/TCC, PNT, G2, pTa, ly0, v0.その後再発を繰り返し下部尿管および膀胱全摘後に回腸新膀胱増設術を施行。

組織診断:

UC/TCC, PIT, G2, INF α , pR0, ly1(D2-40), v0(VB-HE), rpT2, pN0, cM0, rpStage II,

WHO Classification: urothelial carcinoma, infiltrating, Nested, high grade.

以降、細胞診にて経過観察

出題者:佐藤正和(四国がんセンター)

6.) 症例4 (設問2) (選択問題)

尿路上皮の良性異型細胞

反応性尿細管上皮細胞

変性腸管上皮細胞

尿路上皮癌細胞

組織球集塊

	回答	
	(%)	(投票数)
	14.12%	12
	8.24%	7
	41.18%	35
	31.76%	27
	4.71%	4
合計	100%	85

症例4 (設問2)

1. 尿路上皮の良性異型細胞



2. 反応性尿細管上皮細胞



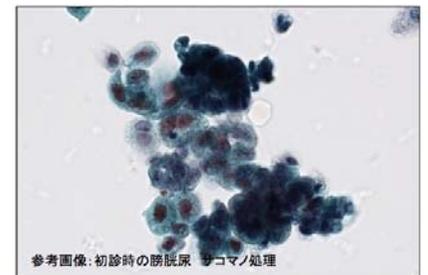
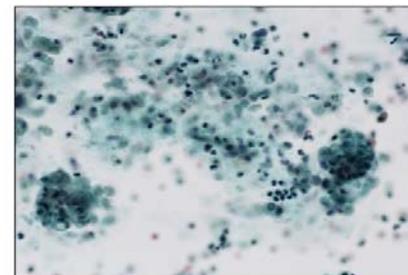
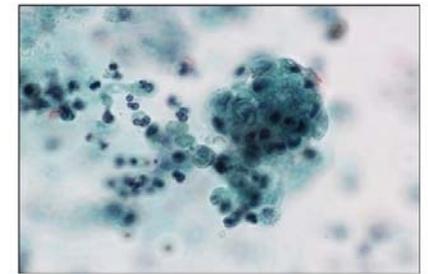
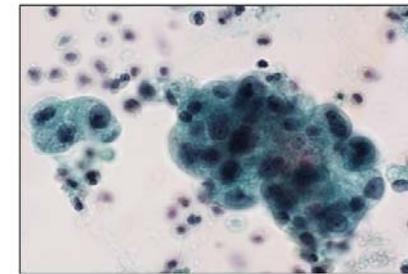
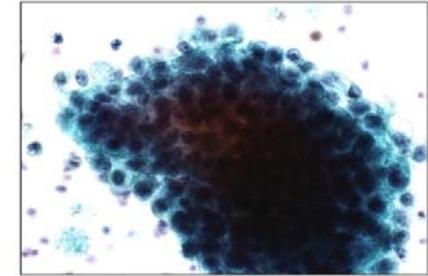
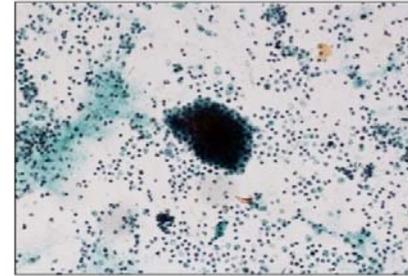
3. 変性腸管上皮細胞



4. 尿路上皮癌細胞



5. 組織球集塊



参考画像: 初診時の膀胱尿 サイモノ処理

症例5(設問2題):70才代 男性

検体及び処理法:腎盂洗浄液(左右) 沈渣すり合わせ法

経過:2011年尿路上皮癌(CIS)にてTUR及びBCG療法施行。

以後経過観察。2012年再発疑いにてTUR、膀胱三角部に異型尿路上皮が確認され

再度BCG療法施行。以後経過観察。2014年、念のため施行された上部尿路の精査にて左右の腎盂洗浄液細胞診が施行された。

出題者:安達博成(メデイカルなら)

左右それぞれに回答

7.) 症例5(左腎盂洗浄液)(選択問題)

正常尿路上皮細胞

良性異型尿路上皮細胞(反応性異型)

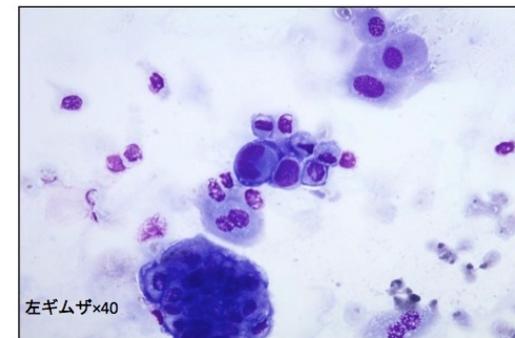
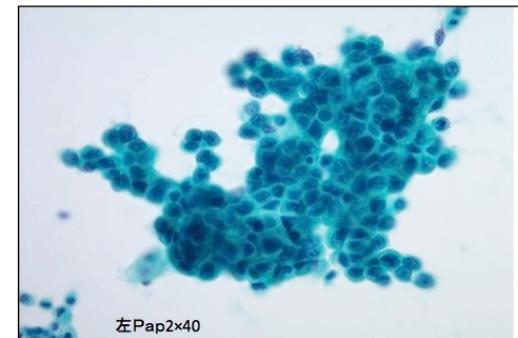
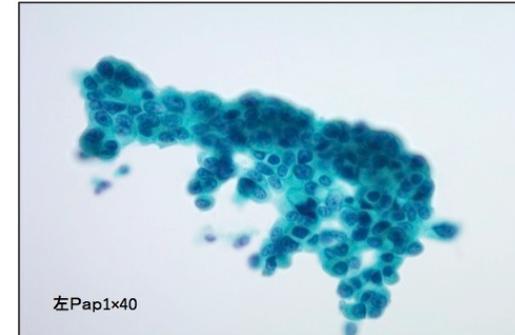
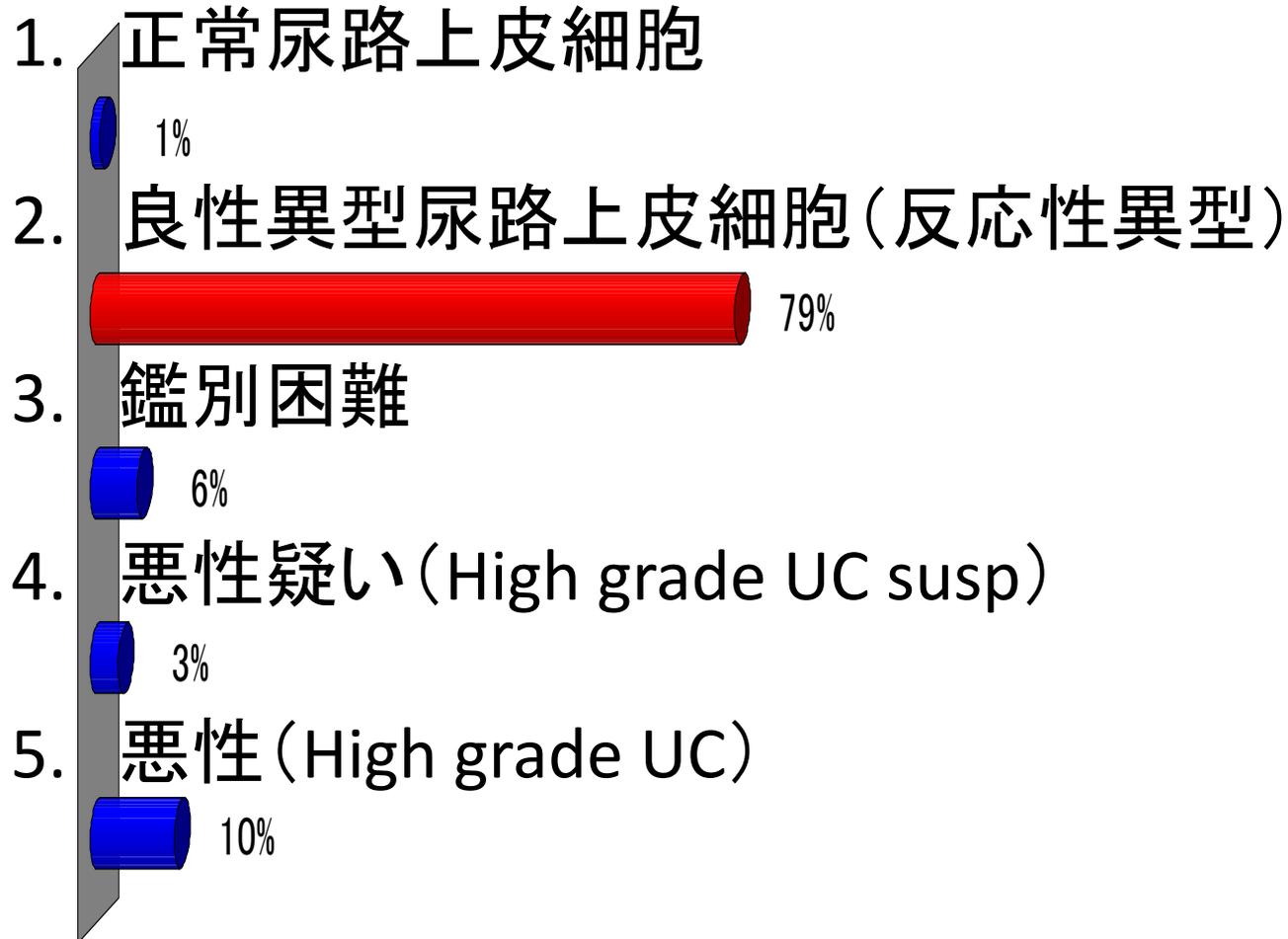
鑑別困難

悪性疑い(High grade UC susp)

悪性(High grade UC)

	回答	
	(%)	(投票数)
正常尿路上皮細胞	1.15%	1
良性異型尿路上皮細胞(反応性異型)	79.31%	69
鑑別困難	5.75%	5
悪性疑い(High grade UC susp)	3.45%	3
悪性(High grade UC)	10.34%	9
合計	100%	87

症例5 (左腎盂洗淨液)



症例5(設問2題):70才代 男性

検体及び処理法:腎盂洗浄液(左右) 沈渣すり合わせ法

経過:2011年尿路上皮癌(CIS)にてTUR及びBCG療法施行。

以後経過観察。2012年再発疑いにてTUR、膀胱三角部に異型尿路上皮が確認され

再度BCG療法施行。以後経過観察。2014年、念のため施行された上部尿路の精査にて左右の腎盂洗浄液細胞診が施行された。

出題者:安達博成(メデイカルなら)

左それぞれに回答

8.) 症例5(右腎盂洗浄液)(選択問題)

正常尿路上皮細胞

良性異型尿路上皮細胞(反応性異型)

鑑別困難

悪性疑い(High grade UC susp)

悪性(High grade UC)

	回答	
	(%)	(投票数)
正常尿路上皮細胞	1.16%	1
良性異型尿路上皮細胞(反応性異型)	30.23%	26
鑑別困難	11.63%	10
悪性疑い(High grade UC susp)	22.09%	19
悪性(High grade UC)	34.88%	30
合計	100%	86

症例5 (右腎盂洗浄液)

1. 正常尿路上皮細胞

1%

2. 良性異型尿路上皮細胞(反応性異型)

30%

3. 鑑別困難

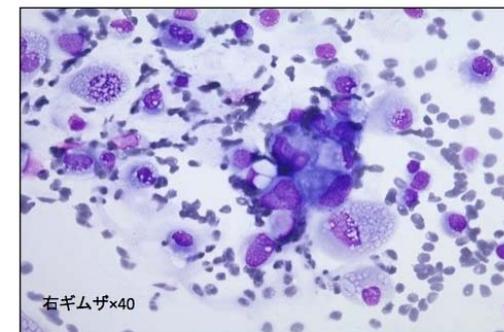
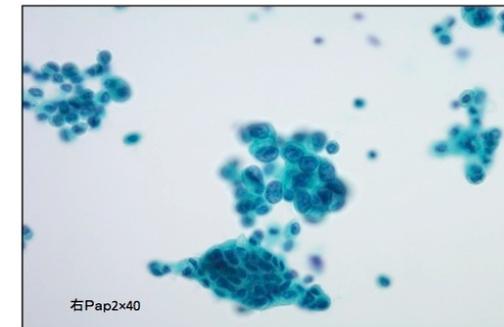
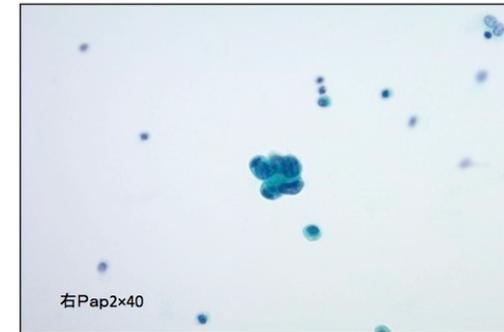
12%

4. 悪性疑い(High grade UC susp)

22%

5. 悪性(High grade UC)

35%



症例6:60才代 男性

検体:自然尿

主訴:尿線が弱い

臨床所見:エコー上、膀胱右側壁に腫瘍有り

出題者:川口洋子(東京新宿メデイカルセンター)

9.) 症例6 (選択問題)

尿細管上皮細胞

低異型度尿路上皮癌細胞

高異型度尿路上皮癌細胞

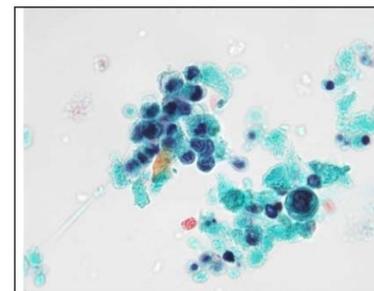
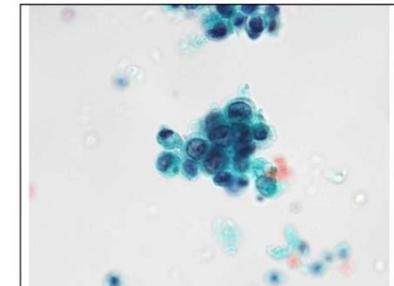
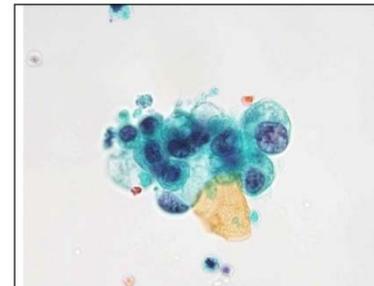
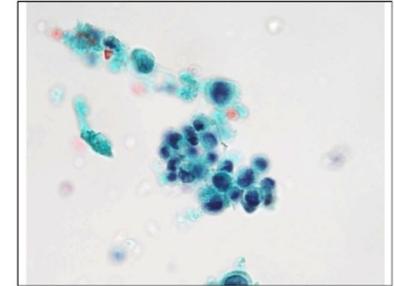
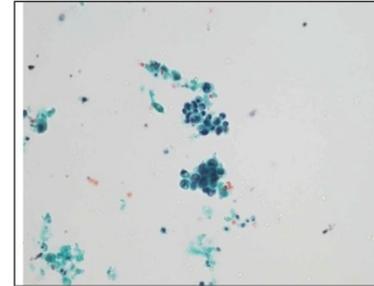
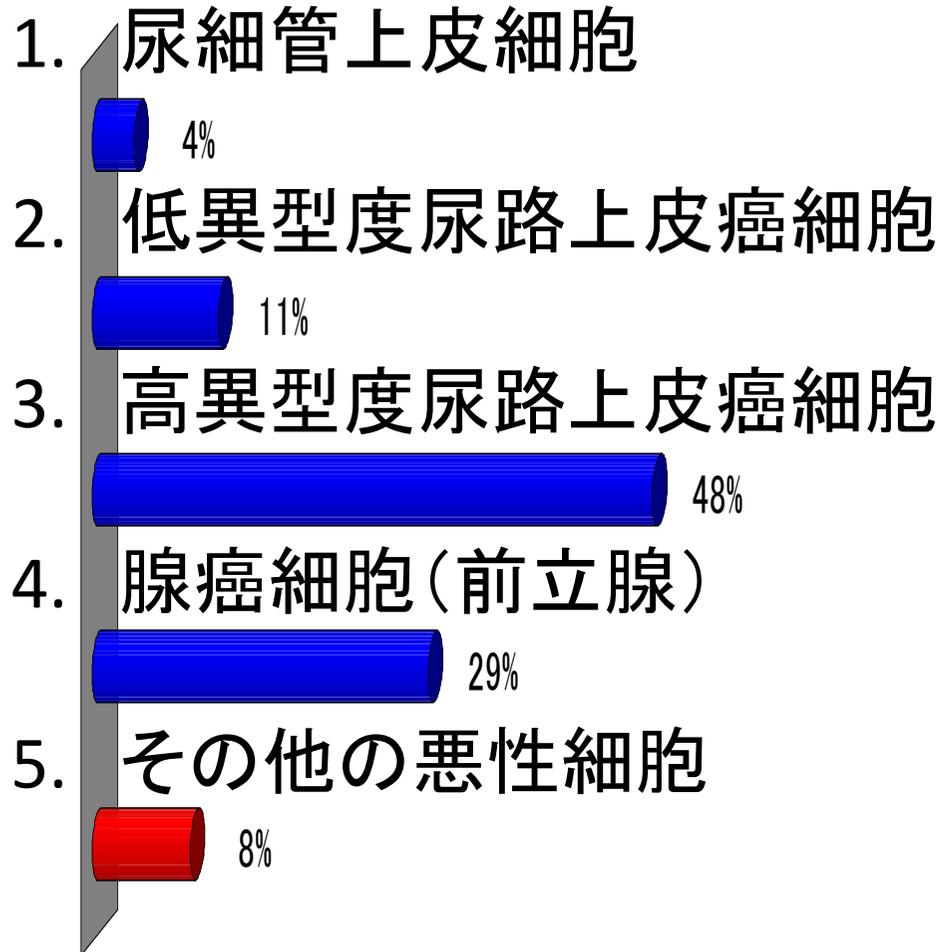
腺癌細胞(前立腺)

その他の悪性細胞

	回答	
	(%)	(投票数)
尿細管上皮細胞	3.61%	3
低異型度尿路上皮癌細胞	10.84%	9
高異型度尿路上皮癌細胞	48.19%	40
腺癌細胞(前立腺)	28.92%	24
その他の悪性細胞	8.43%	7
合計	100%	83

病理診断:Malignant epithelial tumor of the urethra,anterior pelvic exenteration ,
-adenocarcinoma with AFP production and neroendocrine

症例6



症例7:70才代 男性

検体及び処理法:右腎盂洗浄尿、二回遠心法、処理液(YM液状検体処理)添加

主訴:血尿

現病歴:肉眼的血尿にて前医受診。細胞診検査にてClass IIであったが、CTにて右腎盂にやや拡張が見られ、腎盂腫瘍が疑われた。精査目的に当センター受診。逆行性腎盂造影検査にて中腎杯を占める乳頭状腫瘍が確認された。

出題者:小山芳徳(帝京大学ちば総合医療センター)

1.) 症例7 (選択問題)

Inadequate / 検体不適

Negative for malignancy / 陰性

Atypical cells / 異型細胞

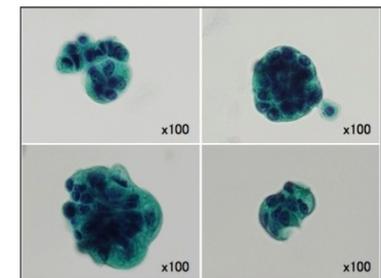
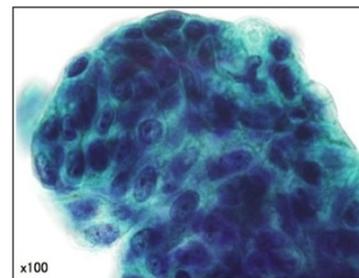
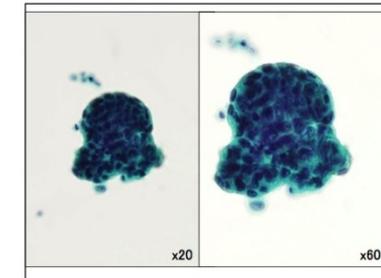
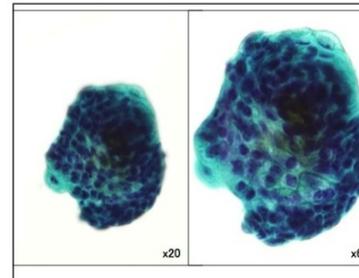
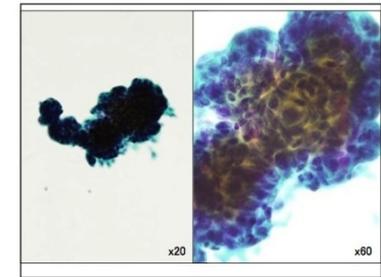
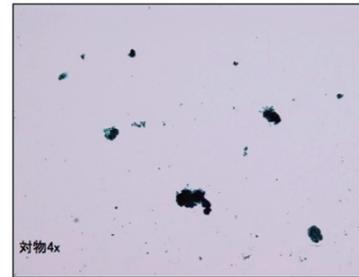
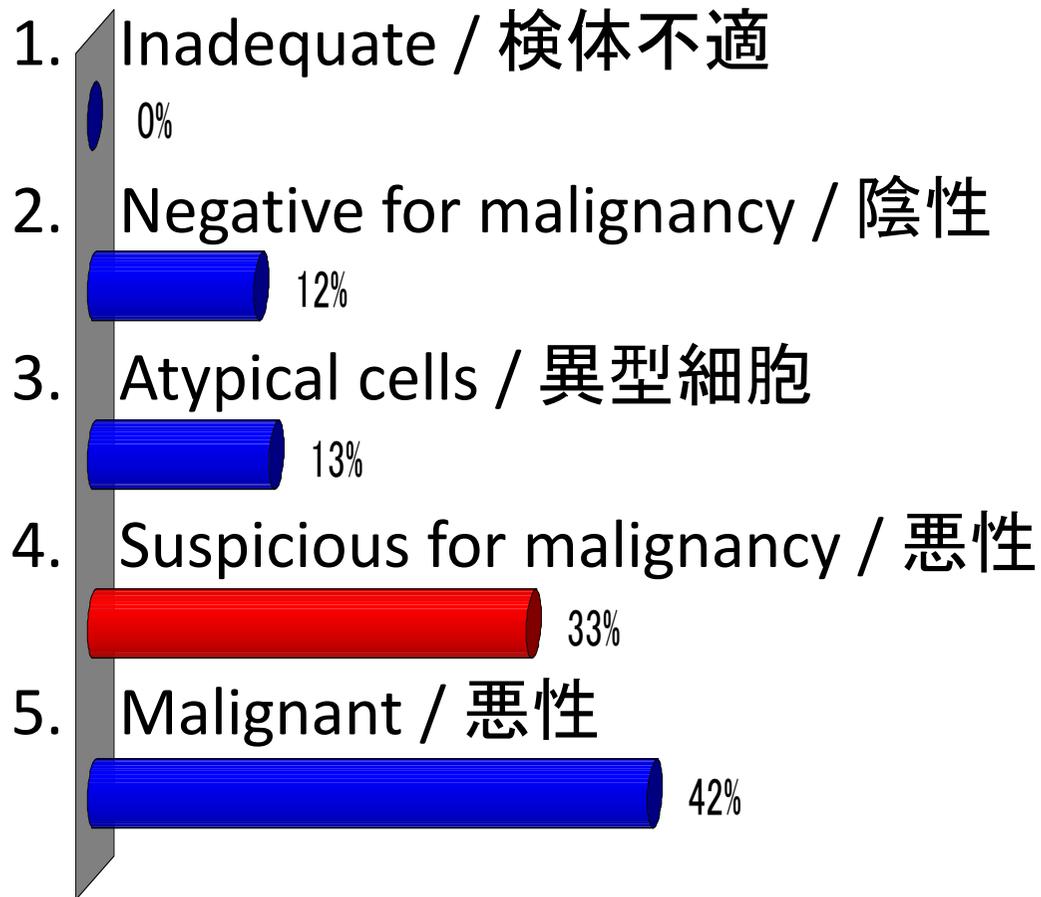
Suspicious for malignancy / 悪性

Malignant / 悪性

	回答	
	(%)	(投票数)
Inadequate / 検体不適	0%	0
Negative for malignancy / 陰性	12.36%	11
Atypical cells / 異型細胞	13.48%	12
<i>Suspicious for malignancy / 悪性</i>	<i>32.58%</i>	<i>29</i>
Malignant / 悪性	41.57%	37
合計	100%	89

右腎盂生検組織診断:low grade papillary Urothelial carcinoma

症例7



症例8:70才代 男性

検体:左尿管カテーテル尿

現病歴:検診エコー検査にて水腎症を指摘。近医のCTにて水腎症(結石は陰性)を指摘。精査目的で当院受診。画像検査で左腎盂・上部尿路に拡張を認め、軽度の水腎症を認めたことから尿管癌を疑い、自然尿およびカテーテル尿の細胞診施行。しばらく尿細胞診陰性が続くが、ある時点で異型細胞が確認された。ステント留置後水腎症は見られなくなった。

出題者:木下勇一(関西医科大学付属滝井病院)

2.) 症例8 (選択問題)

陰性 (良性異型)

疑陽性 (悪性を否定しえない)

疑陽性 (悪性を強く疑う)

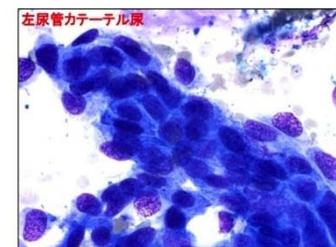
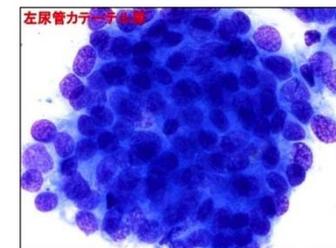
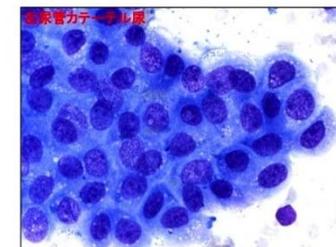
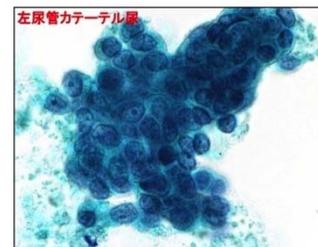
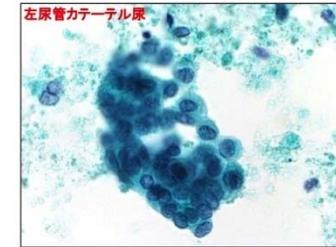
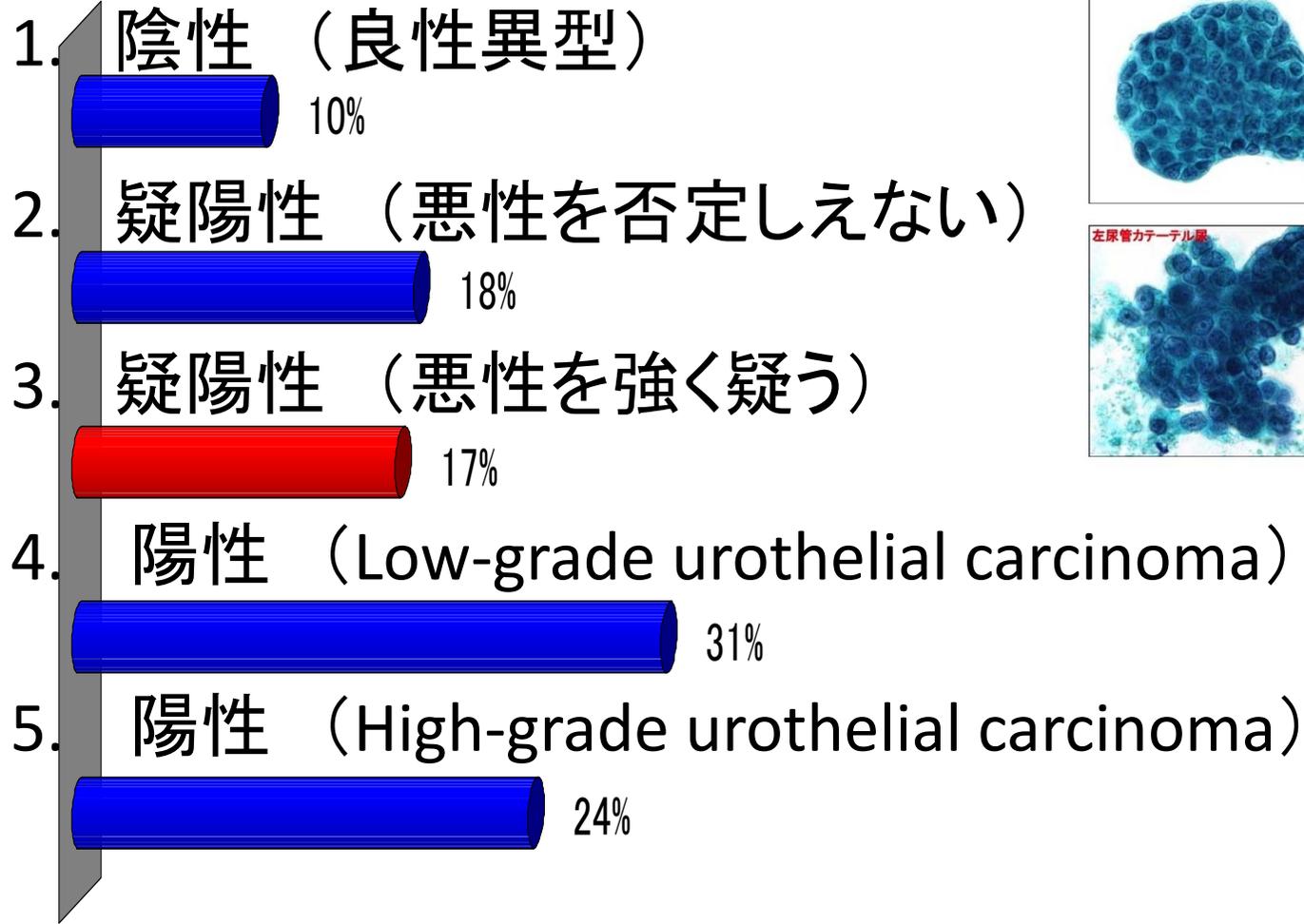
陽性 (Low-grade urothelial carcinoma)

陽性 (High-grade urothelial carcinoma)

	回答	
	(%)	(投票数)
陰性 (良性異型)	10%	10
疑陽性 (悪性を否定しえない)	18%	18
疑陽性 (悪性を強く疑う)	17%	17
陽性 (Low-grade urothelial carcinoma)	31%	31
陽性 (High-grade urothelial carcinoma)	24%	24
合計	100%	100

経尿道的尿管生検 組織診断 :Urothelial dysplasia of ureter

症例8



症例9:70才代 男性

検体及び処理法:分腎尿(左右上部、中部、下部) 二回遠心法

現病歴:血尿にて初診。US/CTにて右腎に9cm大の腫瘍あり。

直近に前立腺癌(T1N0M0)の既往あり。

出題者:岩井幸子(産業医科大学)

3.) 症例9 (選択問題)

反応性異型

尿路上皮内癌

尿路上皮癌

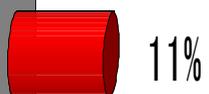
腺癌

カルチノイド

	回答	
	(%)	(投票数)
反応性異型	10.53%	10
尿路上皮内癌	9.47%	9
尿路上皮癌	12.63%	12
腺癌	67.37%	64
カルチノイド	0%	0
合計	100%	95

症例9

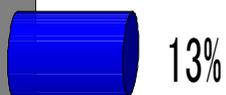
1. 反応性異型



2. 尿路上皮内癌



3. 尿路上皮癌



4. 腺癌



5. カルチノイド

